

和而不同

不安や心配事を感じると、何かに頼りたくなるものだ。人・もの・場所・言葉・・・自身にとつての「依（よ）りどころ」は、生きていく上で安心を保つための貴重な存在である▼他に身を委（ゆだ）ねる際には、信頼関係はもちろん

のこと、下手に「私の都合」を挟まないことも大切だ▼歯科医院へ治療を受けに行く際、「資格はあるのか。本当に大丈夫かな」とわざわざ疑いを抱えていくことはないだろう。「歯医者さん」という存在に対して、はじめから任せることができるという前提がある▼電動の治療イスに横たわり、目隠しガーゼを添えられ、言われるがままに口を開閉し、口内に入る医療機器を受け入れる。そうした自身の姿を客観的に眺めれば、無抵抗・無防備に他ならない。裏を返せば、まさにこれこそ身を「委ねる」状態である▼しかしながら、日常生活にはそれが可能な場合とそうでない場合がある。本来、他に自身の全てを疑いなく委ねることはそう容易ではないはずだ。自らの意志で「私の都合」を差し置く場合ならなおさらである。とりわけ「いのち」に関わる局面では判断が困難であることは明白だ▼現在、目下の関心事の一つが「ワクチン」だ。錯綜する情報によって、不安解消が一つの目的であるワクチンを接種するところが不安というジレンマが続いている▼迷い、揺れ動く心にこそ、確固たる「依りどころ」が必要なかもしれない〔徳〕